

「第6回 サンプルダムモニタリング部会意見概要」

① モニタリング総合評価（案）

- ・各調査結果の評価欄について、報告された内容が概要版の記載では評価について不足している。次年度取りまとめるにあたっては、評価欄に関する記載を工夫して明確にすること。
- ・ダム事業によって環境が変化することが必ずしも全て悪いわけではなく、新たな生息生育環境の形成や保全対策などによる効果もみられることから、目指すべき方向性なども勘案して評価の表現を工夫してみるとよい。
- ・ダムは1/10規模の渇水を想定していることから、今回のような異常渇水時では正常流量を全て満足することは困難であるが、ある程度の補給効果は現れている。そのような視点でのコメントでとりまとめた方がよい。
- ・猛禽類については、採餌環境（サンプルダム周辺では伐採箇所等）の維持が重要である。今後のフォローアップ調査においては、参考として通常の調査範囲だけでなく、その周辺の情報（衛星写真等の判読）も収集した上で、調査結果の評価を行うことが望ましい。

② 今後の調査計画（案）

- ・概要版において「水国調査に移行する」とだけ記載している箇所が散見される。最終的にとりまとめる際は、もう少し留意点や調査内容などを具体的に記載しておいたほうがよい。
- ・下流河川環境については、出水による環境変化だけでなく、異常渇水時における変化も確認しておくことが望ましい。

③ その他の意見

- ・埋土種子の発芽を確認した場合は、防草シートを撤去せず再度かぶせていることにより、発芽してきた個体も枯死するため、侵略的外来種の処理としては非常に有効である。また、防草シートによる草本類の抑制効果は限定的ではないため、誤解を招く表現は見直すこと。
- ・試験湛水による冠水でも枯死しなかった樹種がいくつかある。これらの結果は今後の同様事業の参考として重要な情報であることから、今後の最終評価でも十分にとりまとめておいてほしい。